

# 白亜通信

NO.2 2003.09.01

発行 芝浦土木卒業生の会(白亜会)事務局  
東京都港区芝浦3-9-14 芝浦工業大学土木工学科内  
電話 03-5476-3057 FAX: 03-5476-3057  
<http://www.db.shibaura-it.ac.jp/~hakua/>

## 第3回白亜会総会のご案内

会長 矢島哲司

(土木工学科主任 昭和40年卒業)

卒業生各位におかれましては、ますます、ご清栄のこととお慶び申し上げます。

第3回白亜会総会を下記のように開催いたします。また、代議員会、記念講演会、技術パネル展示会を同時に開催いたします。万障お繰り合わせの上、ご参加ください。

我々の建設業界を取り巻く状況は大変厳しい時代ではありますが、こんな時期こそ同窓の皆さんが互いに交流を深め、協力しあっていく必要があるのではないのでしょうか。前回・前々回ともに200名を越す参加をいただきましたが、今回は総会他に、新しい土木技術の展望を土木工学科の2人の教員によりコンクリートと交通の専門の立場から話題提供の御講演をいただきます。また、白亜会が卒業生の技術交流の手助けをする場との願いから、今回はじめて卒業生の有志によりパネル技術展示会を行います。この展示会を契機に卒業生相互の交流がより一層活発になるよう企画いたしました。11月総会に皆様とお会いできますことを楽しみにしております。

**第3回芝浦土木卒業生の会・白亜会総会**  
期日 2003年11月14日(金)  
場所 ホテルJALシティ田町東京

(JR 田町駅 芝浦口徒歩5分)

代議員会 PM3:00(瑞祥の間)

代議員の方には10月に議案書を送付します

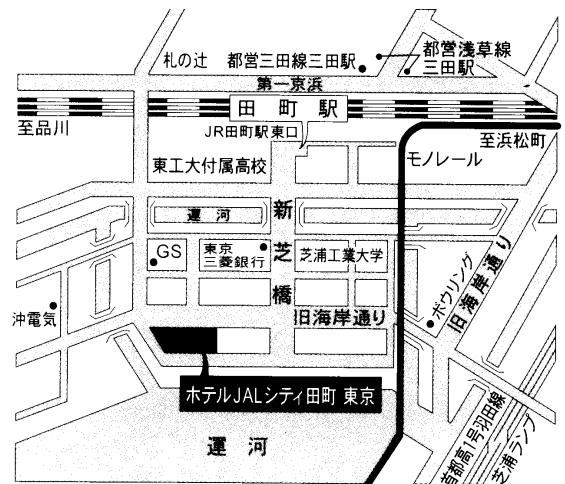
総会記念講演会 PM4:00(瑞祥の間)(概要は左下)

土木工学科 勝木太先生 / 岩倉成志先生

パネル技術展示会 PM3:00~6:00

右下の案内参照(飛翔の間)

総会 PM6:00~8:00(鸞凰の間)



ホテルJALシティ田町東京 TEL:03-5442-0202

### ~~~~~講演会案内~~~~~

勝木太(コンクリート構造研究室)

『コンクリート構造物のヘルスマニタリングに関する最近の動向』

老朽化したコンクリート構造物の安全性や新しい設計法の導入により維持管理の重要性が認識され、『コンクリート構造物のヘルスマニタリング(実時間的な健全性の評価)』という新しい概念が提唱されている。その動向と最新のセンシング技術を紹介する。

岩倉成志(交通計画研究室)

『都市再生と土木計画』

都市鉄道の混雑、道路沿道の大気汚染、地域経済の不均衡など東京圏が抱える都市問題は、多様かつ深刻である。昨年度より本学科では都市再生研究プロジェクトをスタートさせた。本講演では、土木計画分野からみた都市再生の課題を述べた後、本研究室での都市再生研究の取り組みについて紹介する。

### パネル技術展示会案内

総会に併設してパネル技術展示会を開催いたします。

卒業生各位の所属される会社、団体において開発されたシステム、工法などを他社や大学関係者にアピールし、技術交流を図る場を提供いたします。

当日のパネル展示のほか大学ホームページにも掲載することによりしております。出展を希望される方は、大学内白亜会事務局まで問い合わせください。出展要綱は白亜会ホームページをご覧ください。

<http://www.db.shibaura-it.ac.jp/~hakua/>

## << 第2期白亜会の活動報告 >>

- 2001年11月16日 代議員会および総会・講演会（下段記事）  
代議員会 - 2期役員を選任（1期役員重任）・予決算承認・寄付の報告  
総会 - 卒業生200名の参加 記念講演会 - 高橋裕先生「21世紀における土木技術者の役割」
- 幹事会 2002年1月 2期活動方針 第3回総会・2003年名簿編集
- 支部総会 2002年 福岡支部・埼玉県支部・芝浦道友会・飛島会・三井建設支部  
関電工会・大林会 昭和35年クラス会その他
- 寄付金 第1期より総計130件220万円

### 第2回白亜会総会に集った卒業生

2001年11月16日、JALシティ田町東京において第2回白亜会総会が開催されました。

総会に先立ち、前本学教授の高橋裕先生の記念講演会が行われました。「21世紀における土木技術者の役割」と題された講演は、日本の近代化、また戦後復興、高度成長を支えた土木技術の役割を認識すると共に、21世紀に向かって、地球規模での新しい観点より、再構築していく必要があると述べられました。

総会では、石川洋美理事長よりの祝辞をいただき、本学の将来の構想について、お話を伺いました。代議員会では、発足間もないため、白亜会の役員は運営が軌道に乗るまであと1期重任することを報告し承認されました。引き続き懇親会へと移り、200名を越す参加者があり旧交を温めることができました。



校歌斉唱 (中央中原氏 S43年卒)



元教員斉藤・加藤先生とともに

### 白亜会賞受賞者の報告

#### <平成12年白亜賞受賞者>

皆葉 栄 (アジア航測株)

『GISを用いた港区における小児緊急医療施設の最適配置』

東風谷 峰子 (メトロ設計株)

『田町駅前広場のアメニティデザイン』

湊 拓哉 (大林道路株)

『高強度フライアッシュ骨材を用いたコンクリートの破壊機構』

#### <平成13年白亜賞受賞者>

関根 智之 (前田建設工業株)

『高レベル放射性廃棄物の地層処分に用いられる緩衝材の膨張特性』

林田 千加子 (共和化工株)

『地表流と地下流の相互作用に関する汎用モデルの開発』

豆田 憲章 (芝浦工業大学大学院)

『コンクリート梁の補修強度に関する基礎研究』

平成13年白亜賞受賞者

豆田 憲章 (芝浦工業大学大学院)

この度、平成13年度白亜賞という名誉ある賞を頂き大変光栄に思っております。卒業式に手渡されたときに正直「私が頂いてよろしいものか」と思いましたが、諸先生や同期生から「おめでとう」という言葉をかけていただき卒業生代表として大変嬉しく感じました。

私は現在芝浦工業大学大学院に在学しており、土木技術者として必要な専門を深めるとともに、建設技術を社会がどのように考え、人々が何を望み、いかに反映させていくのかなどを学んでおります。

今後土木技術者として今回頂いた白亜賞に恥じないように、またご期待に添えるよう頑張りたいと思います。

ありがとうございました。

『』内は受賞者の卒業論文テーマ

## 豊洲新キャンパス建設へ

21世紀を担う技術者の育成を課題に、東京ウォーターフロント豊洲に新キャンパスを建設する計画が進んでいます。現在の田町校舎は、戦前からの建物を改修、増築して今日まで維持されてまいりました。しかしながら、今日の技術革新に対応できる設備等、老朽化した校舎では限界であり、新キャンパスの建設は長年の懸案となっていました。江東区豊洲(石川島播磨重工(株)工場跡地)に敷地面積が現在の4倍強の土地を購入し、2006年4月開校を目指して建設されようとしています。



(豊洲新キャンパス計画図)

## <<最近の土木工学科>>

土木工学科教授 守田 優

土木工学科では、この数年にわたって教育改革を進めてきました。公共投資の縮小に端的に現れた土木への需要の質的量的変化、入学する学生の顕著な学力低下といった、この10年ほどの国内情勢への対応が背景にあります。わたしたちは、これらの問題を、土木工学の内部的な変革を迫るものと受け止め、学科の名称の変更というような安直な解決ではなく、新たな理念のもとに、真の豊かさを目指す土木工学はいかにして可能かという問いから、土木教育の抜本的改革に取り組んでいます。

そのひとつの成果として、本土木工学科の進むべき方向について若手教員を主体に検討を重ね、「土木工学科の今後の方向性」という報告書にまとめました。そこでは、従来のハードを基本とした土木から、ソフトへ重心を移した土木工学へとカリキュラムの再編を進め、**社会科学を基礎とした土木工学**を基本的な方向として具体化させていくことが確認されました。「マーケティング・サイエンス」、「プロジェクト計画評価演習」など、多くの特色ある科目がカリキュラムに組み込まれてきています。

学生の学力低下への対応として、基礎学力の充実とともに、コミュニケーション能力の向上を目指し、問題解決能力や自己表現能力に焦点を当てた導入ゼミ(1年前期)に本学で最初に着手しました。これに先行して、企画力やプランニング能力に特化した人材を育成するための新しい入試制度を2000年度から実施しております。これは、**プレゼンテーションを中心にした特色ある自己推薦入試**であり、学科の教育のみならず、本学全体へもさまざまなインパクトを与えています。

また、研究においては、芝浦工大の特色を明確にし、また学科一体となった研究体制を推進するため、**都市再生**を学科の長期的なテーマとして設定しました。卒業研究でも、「都市再生」のセッションを設けるなど、その取り組みを具体化させています。最近話題になったCOEトップ30においても、残念ながら選考には漏れましたが、本学科は、「都市再生」の研究拠点として申請いたしました。

このように、土木工学科は、**本学において大学改革を先頭にたって推し進めながら、日本の将来を担う新しい土木工学を目指す学科**として認知されるよう頑張っております。白亜会の会員の方々もこのようなわれわれの努力を見守ってくださるようお願いいたします。

## 卒業生からのたより

出原 平正 (昭和28年卒業 大学第1期生)

私は昭和28年に卒業して今年で50年になりました。学生時代を振り返ってみますと、思っている以上に数々の事が浮びあがって来ます。教授と1対1の授業をした事や、時には専門学校の方と一緒に授業を受ける事も有りました。奥多摩湖小河内ダム工事の現場見学。東京都5ヶ年計画完成島見学(工事用船) 元国鉄荒川東北本線、常磐線、橋梁現場見学。田町横河橋梁工場見学 などの見学をして就職後の活動にずいぶん役立ちました。

右は同期生との学生時代の写真。前中央が磯崎伝作先生・後右端が出原です。



思い出の学生時代



出口 次郎 (昭和 28 年卒業 大学第 1 期生)

私は卒業後鋼橋の製作、架設の専門メーカー横河橋梁製作所に就職、北九州市の若戸大橋を皮切りに、昭和 60 年竣工の本四連絡橋大鳴門橋、大型吊橋を最後に、その間主として日本全国に大小様々の鋼橋の製作、架設の責任を果たして来ました。振り返って見ますと全く素晴らしい現役時代を送らせて頂きました。ひとえに私共を教育して下さいました工学部の緒先生方のお力による所で有り深く感謝の念に堪えません。

又私共の卒業後毎年多数の優秀な後輩諸君を全国に送り社会の繁栄に大きく寄与して下さいて居ります母校の今後の益々の御発展を心よりお祈り致します。

## 支部からのたより

**地域、職域、各学年で支部を設立しましょう！！**

### 「白亜会福岡支部」便り

支部長 武田 正 紀 (八千代エンジニアリング株) 昭和 42 年卒業)

私達の支部は「白亜会」が東京で設立された翌年の 2000 年 6 月に 70 数名の会員中約半数の出席を得、全国のトップを切って発足いたしました。

福岡県は校友会が存在しておりますが、何の活動もなく現在でも有名無実の状態であります。

このような状況を長年憂いて何とかしなければ、と機を窺ってこられた大先輩の芳賀次男氏(昭和 28 年卒業)を中心とする一部の土木の有志で、「白亜会」が東京で設立されたのを機会に先ず土木工学科の卒業生で福岡支部を発足しようと発起人会を興し準備を重ね、2000 年 6 月に第 1 回白亜会福岡支部総会を開催しました。総会は年 1 回開催し、今年も 6 月に菅教授の出席を得て盛大に第 4 回総会を実施するに至りました。

当支部では、会員同士の親睦を図るため、春は親睦ゴルフ大会後に総会・懇親会を、秋は親睦ゴルフの後に懇親会を開催しております。

昨年秋は湯布院で一泊してのゴルフと懇親会ですが、今年も 10 月に大分県校友会の同志と同じ湯布院で競い合いたいと計画しております。 楽しみです...!

### 「芝浦道友会」の紹介

勝 俣 健 二 (大林道路株) 昭和 45 年卒業)

芝浦道友会の発会は、東京都内にある道路業界大手の幹部が食事会を開催したことがきっかけでした。集まったメンバーは、土木工学科卒業生の方々であり、以後 8 回程度会合を開催してまいりました。平成 3 年 2 月にこの食事会を母体として、道路業界の会社に勤務するメンバーが主体となり芝浦工大 OB の会「芝浦道友会」が発足しました。

この時の主要なメンバーは、杉山氏、岡上氏、藤木氏、松本氏、池田氏、富山氏たちであり、後に各社の取締役として経営に参画した方々でした。

現在の会員数は 200 名を越え 年 1 回の総会と年 2 回のゴルフコンペを開催し、会員相互の親睦と情報交換を行っています。また、大学側とも学生の就職など積極的な交流を図っています。



(芝浦道友会総会風景)



S 28 年当時の芝浦校舎 (出原平正氏提供)

<< 編集後記 >>

左の写真は昭和 28 年当時の芝浦校舎本館です。本文寄稿の卒業生出原氏提供の写真ですが、校舎の手前が釣り船の小屋と木造の新芝橋が写っている懐かしい写真です。この本館校舎は太平洋戦争前からのもので、60 年以上経ったいまでもほとんど当時のままの姿で芝浦工大生を見守っています。豊洲に新キャンパスが建設されようとしています。今後もこの校舎が大学の発展と卒業生の活躍を応援してくれるでしょう。

『白亜通信』は今後も土木卒業生の交流の場を提供いたします。学生時代の話題や卒業後の話題の提供を待っています。(園田・重富)